

反射材の効果について

みなさん、反射材は持っていますか。着用していますか。

秋の空は「釣瓶落とし」といわれます。井戸に釣瓶が落ちるように、暗くなるのが早いという意味です。

三重県では『夕暮れ時、ちょっと早めのライト・オン運動』が10月1日から12月31日まで実施されます。

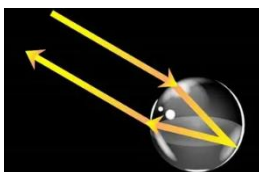
推進事項は「夕暮れ時又は天候に応じた早めのライト点灯」と「反射材用品の着用推進」です。



春夏と比べて、秋冬は暗い色の服が多くなりがちです。暗い色や濃い色の服装では、夕暮れになると「黄昏時」といわれるように、周囲に溶け込んでしまい見えにくくなります。歩行者は車に早く気付いても、運転手は歩行者に気付きにくく、気が付いてブレーキを踏んでも間に合わないことがあります。

車のライトが下向きの場合、照射距離はおよそ40メートルですが、停止距離は時速60キロメートルで44メートル必要となり、道路状況によっては間に合わないことがあります。上向きライトではおよそ100メートル先まで照らしますが、暗い色や濃い色の服装では歩行者を発見しにくく、やはり間に合わないことがあります。

夕暮れ時は、日没時間の概ね30分前が目安です。ドライバーは早めにライトを点灯し、歩行者は反射材を着用しましょう。



反射材は、遠くからでも早く気付いてもらえるのが特長です。反射材は「再帰反射」という性質を持つ素材でできており、普通の反射とは異なり、光がどの方向から当たっても光源に向かってそのまま反射するように光学的に工夫されています。車のヘッドライトが当たると、その光は光源である自動車に向かってそのまま反射されます。着用している本人は光っている様子を確認できませんが、ドライバーからはよく光って見えます。



ライトなどの光があればよいといって「ながらスマホ」は、安全確認がおろそかになり、大変危険です。

歩行者もドライバーも、暗くなる前に早めの対策をお願いします。

